

本コーナーでは、毎号、ゲストの方に言葉や漢字にまつわるお話をさせていただきます。ゲストが語る漢字の魅力は、きっと漢字との新しい付き合い方のヒントになるでしょう。

私と漢字

2010年7月に開かれた第42回国際化学オリンピックで見事金メダルを受賞した、栄光学園高等学校(神奈川県)3年生の遠藤健一さん。前年のイギリス・ケンブリッジ大会に続く2年連続金メダル受賞は日本代表初の快挙です。中学校2年生で漢検1級にも合格している遠藤さん。そのマルチな才能に隠された秘密を探りました。

だから 化学と漢字は おもしろい



国際化学オリンピック2年連続金賞受賞

遠藤 健一さん

1992年神奈川県生まれ。現在、栄光学園高等学校3年生。小学校3年生から漢検に挑戦し、栄光学園中学校2年生のときに1級合格。英検も高校2年生で準1級合格。2009年の第41回国際化学オリンピックに初出場し、金メダル受賞。2010年の第42回大会でも金メダルを受賞した。家族で漢検に取り組んでおり、母は漢検準1級合格。

原子を組み合わせるゲームに夢中だった小学生時代

今回の国際化学オリンピックは、世界68の国と地域から高校生267人が参加し、初めて日本で行われました。大会では「実験」と「筆記」の問題が出題されました。「実験」では与えられた3問に対して手順よく正確に作業を進められるかどうかの能力が問われ、「筆記」ではフグ毒の構造などの大学で学ぶレベルの問題が出題されました。

国際化学オリンピックの出場にあたり、最も心強く感じたのは家族や友人の励ましです。友人が開いてくれた壮行会では、私が大会で油断をしないようにと、私の得意な漢字クイズで勝負を挑んでくれました。結果的に彼に勝ち、勢いにのったまま本番に臨むことができました。おかげで、2年連続で金メダルを受賞することができました。

また、約10日間の大会期間中、各国の高校生と交流できたことも貴重な経験でした。私たち日本の高校生はホスト国の代表ということもあり、宿舍となった東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで、各国の高校生と積極的に交流しました。

特に同じアジアのマレーシアやシリアの代表と仲良くなり、彼らが帰国した後もインターネットのチャットで、お互

そして、趣味の音楽も楽しみ、好きな音楽を聴きながら、化学の世界をさらに探求したいと思います。そして将来は化学者となり、日本や世界が抱える環境問題の解決に貢献できる研究をしたいと考えています。



遠藤さんが毎日コツコツ続けた漢字練習ノート

※1 現代の漢字のもとになる古代文字のひとつ。紀元前の秦の時代以前に使われていた。象形文字に近いイメージで、現在でも法人、個人の実印や書作品に押される落款印などに用いられている。

いの国の事情や日常生活について話すなど、国際交流を深めています。

化学が好きになったのは、小さいころから記号や法則に興味があったからです。小学生のときには、水素や酸素などの原子を組み合わせて分子を作るパソコンゲームに夢中でした。

さらに、父親に化学の入門書を買ってもらったことがきっかけで、自分でもどんどん関連する本を読むようになりました。

漢字は分解できるところがおもしろい

化学と同様に、得意な分野が漢字です。漢字は「偏」や「旁」などの構成要素に分解できるところ、一定の規則に従って作られているところが、化学と共通しています。部首の意味を理解すれば、関連した漢字がそれこそ化学反応のようにイメージできるのも、惹かれる理由です。

小学校3年生のときに初めて漢検を受検しました。テレビ番組でタレントの方が漢検に挑戦されているのを見て、母親から「受けてみたらどうか」とすすめられたのです。興味を持った私は、まず6級と5級を同時に受検して、ともに合格しました。その後、4級から2

級まで1つずつステップアップし、中学校に入って、1年生で準1級、2年生で1級に到達することができました。

私の漢字の勉強方法は、漢検を初受験したころから変わっていません。問題集にコツコツ取り組み、分からなかったり間違えたりした漢字をノートに3回から5回書き写す方法です。また、電子辞書やパソコンに頼らずに漢字辞典を引き、意味や漢字の成り立ちを確認することも怠りませんでした。「やる気が起きたときに漢字の勉強をしよう」と決めていましたが、あまり苦にもならずほとんど毎日、30分から1時間続けることができました。

楽しみながら漢字を覚えるコツ

漢字に限らず記号一般は、その背景に多くの意味や情報が凝縮されています。漢字は特に、象形文字、鏡文字、指示文字などさまざまな成り立ちがあり、読み方も音訓それぞれ異なります。また、一文字に複数の意味も込められています。

たとえば、私が好きな飯盒炊爨の「爨」という漢字は、訓読みでは「かしぐ」となり、米や麦などの飯を炊くという意味を持ちます。また、よく見てみると、

かまどの火に手で木をくべる様子が思い浮かびます。

このように漢字の持つ背景に目を向け、一つひとつ理解し、覚えていく過程は楽しいものです。徐々に分かってくることもあり、あるとき突然、謎が解けるような瞬間もあります。楽しみながら漢字を覚えるコツとして、漢和辞典で興味のある漢字の篆書体を眺めてみるのがおすすめです。漢字はたくさんありますので、あつという間に時間は過ぎてしまいますし、飽きることはありません。

常に目標を持って、充実した日々を過ごしていきたい

現在、来春に控えた大学受験の勉強をしています。受験勉強に集中することで、せっかくこれまで覚えた漢字を忘れてしまおうのではと心配です。しかし、いまのところは、気分転換に見るテレビ番組の漢字クイズはほとんど解けますので、大丈夫なようです(笑)。

大学に入學したら、専攻する化学の勉強に加え、読書にも打ち込みたいと思います。これまで専門的な本を読むのが好きでしたが、さらに興味の幅を広げて他分野の本も手に取ってみたいです。

「今年の漢字」は全国の皆様からご応募いただき、最も応募数の多かった字が選ばれることをご存知ですか。2009年は応募総数16万1365票のうち「新」が1万4093票(8.7%)を集め、第1位となりました。

毎年、清水寺の森清範貫主によって大きく揮毫される「今年の漢字」は、新年の幸福を願って「奥の院」のご本尊・千手観世音菩薩に奉納されます。

2010年も開催します! 全国公募で決まる「今年の漢字」



16年目を迎えた「今年の漢字」

その年の世相を表す「今年の漢字」は阪神・淡路大震災が起きた1995年に「震」が選ばれて以来、2010年で16年目を迎え、今年年末の風物詩としてすっかり定着しています。

漢字を通して社会に目を向ける

漢字は表意文字であり、豊かな表現力を持っています。1年を振り返り、その年の世相を漢字一字に凝縮して表す—これは漢字だからこそのことなのです。たった一字の漢字で、その年のさまざまな出来事を思い出し、さらに、その字を選んだ人々が馳せた思いまでも感じることができます。最近では学校や塾などの教育現場でも、子どもたちが社会に関心を持つきっかけとして「今年の漢字」が積極的に取り組まれています。

2010年の応募期間は11月1日(月)から12月3日(金)まで、発表日は12月10日(金)です。皆様もぜひ「今年の漢字」を通して、2010年を振り返ってみてください。

2010年「今年の漢字®」応募概要

- 応募期間 ● 2010年11月1日~12月3日(必着)
- 発表日 ● 2010年12月10日
- ※京都清水寺にて発表
- 応募内容 ● 2010年の世相を表す漢字一字とその理由
- 応募方法 ● ①ハガキ
- 氏名・年齢・性別・郵便番号・住所・電話番号・2010年の世相を表す漢字一字とその字を選んだ理由を明記し送付。
- 〒600-8691 日本郵便 京都支店 私書箱第6号 2010年「今年の漢字」

- ②ホームページ
- 漢検ホームページ(<http://www.kanken.or.jp/>)にある専用フォームより応募。携帯からも可。
- ③応募箱
- 清水寺をはじめ、書店、ホテルなど全国数百箇所に設置。※設置場所は一部ホームページに掲載。
- ④FAX
- ハガキの必要事項を記入の上、03-5744-7678へ送信。※「今年の漢字」応募専用ダイヤルです。応募用紙の指定はありません。

2009年「今年の漢字」ベスト5 (応募総数 161,365票)

1位	「新」	14,093票
2位	「葉」	10,184票
3位	「政」	5,356票
4位	「病」	5,329票
5位	「改」	4,711票

歴代の「今年の漢字」一覧



親子・教員参加型セミナー 「漢検×辞書引き学習法体験」開催



8月1日、親子・教員参加型セミナー「漢検×辞書引き学習法体験」を愛知県名古屋市で開催し、70名の小学生と150名の保護者、教員が参加しました。

第1部では、小学生が漢字教室に参加している間、保護者や教員は「辞書引き学習法」で知られる中部大学准教授の深谷圭助先生の講演に熱心に聞き入りました。

第2部では深谷先生の指導の下、親子一緒に辞書引き学習を体験し、子どもの主体的な学びを引き出す「辞書引き学習法」の効果をさっそく実感していました。

「tesioフェスタ2010」 親子で漢検模擬テストに挑戦



夏休みの3日間(8月27日~29日)、日本教育新聞の主催で開催された、学び・体験ワークショップ「tesioフェスタ2010」。会場となった千葉県の幕張メッセは、延べ3,000名を超える親子の熱気であふれました。

漢検ブースでは、漢検模擬テストの体験や「今年の漢字」の展示、漢字サイコロゲームを行いました。漢検模擬テストでは、子どもと一緒に参加する保護者も多く、中には親子3代で楽しそうに挑戦する家族の姿も見られました。漢字をきっかけに、普段とは違う親子のコミュニケーションの場になったようです。

教育関係者・志望者、一般向け 「日本語力・漢字力」セミナー開催



10月3日、横浜市の慶應義塾大学内で教員や塾講師、教員志望の学生向けの講演会を開催し、約110名の方が参加しました。

まず、文部科学副大臣の鈴木寛氏が「ソフトパワー時代の教育とは～言語力の育成が鍵に～」、次に、慶應義塾大学理工学部教授の山崎信寿氏が「理工系にこそ求められる日本語力」をテーマにそれぞれ講演を行いました。

知識情報社会の今こそ、日本語力や漢字力が求められるというお二人の話に、参加者の多くから「大変参考になった」との感想が寄せられました。

全国の教育関係者、企業関係者の皆様に、子どもや若者に身につけさせたい力や漢字教育に注目するようになった背景についてうかがいました。

財団法人 日本漢字能力検定協会は、「日本漢字能力検定」において特に優秀な成績を取った団体を表彰する制度を設けています。小学校・中学校・高等学校・その他団体の4部門それぞれに最優秀団体賞、優秀団体賞、奨励賞、特別賞があります。

京都府 小学校 **立命館小学校** 主幹 長谷川 昭 先生 平成21年度 最優秀団体賞

学んだ子どもたちが世界を変える

本校は「日本社会の未来を中心に担い、広く国際社会で活躍できる人材」の育成を目指しています。そのために、基礎学力に裏打ちされた「確かな学力の形成」が必要不可欠だと考え、開校以来一貫して基礎学力習得のための漢字指導に取り組んできました。

具体的な指導方法として、(1)国語辞典と漢字辞典を併用した辞書引き学習を全学年で実施、(2)国語の時間以外に「漢字の時間」を設け、部首や類語集めなど漢字の面白さを体系的に学ばせること、(3)漢字の先取り学習を行い、何度も反復学習させることなどが挙げられます。

このような活動を通じて学んだことを整理する場として、全学年が漢字検定を受検しています。その結果、児童は漢字そのものに愛着を持つようになり、早い時期から多くの言葉に出会い、豊かな言語力を身につけてほしいと願っています。

岐阜県 中高一貫校 **帝京大学可児高等学校中学校** 安藤 宗徳 先生

基礎学力の向上 ~社会の一員として活躍するために~

一般的にどの学校でも中学、高校へと学年が進むにつれて、ほかの学習への負担が大きくなることで、漢字に配分する時間は減ってしまっています。そのため、本校では漢検を導入し、各学年に目標を設定することで漢字の学習に対する動機付けを行っています。

漢字を学習することは、当然、語彙力向上のためということもありますが、それ以上に「基礎学力」という考えに基づいて受検を推進しています。なぜなら子どもたちが、将来、社会の一員として活躍するために必要最低限の学力の基礎が漢字だからです。「文系」や「理系」などという枠組みにとらわれず、日本人として、子どものうちに漢字の力を身につけることはもちろん、「漢字への理解を深めること」によつて、正しい言語感覚を養うことにもつながればと考えています。

秋田県 中学校 **横手市立大雄中学校** 校長 小野 先生、国語科 谷口 先生 平成21年度 奨励賞

自分の将来を切り開くために

本校は何事にも積極的に挑戦する「意欲」を持った生徒を育てたいと考えています。生徒は、ややもすると授業で教師から教えられたことだけを覚える「受動的な学び」になりがちです。しかしながら、受動的に生きていくだけでは、自分の将来を切り開くことはできません。

本校の生徒には、自ら学んでいく「積極的な学び」を身につけてほしいと考えています。人生の道程で、すべての人にチャンスは平等に訪れます。そのチャンスを掴み取るかどうかは自分自身に懸かっています。人生のチャンスも検定試験も同じです。挑戦することで初めて結果を得ることが出来ます。

本校では、漢検を教育計画の中に位置づけ、年3回進会場受検を実施しています。平成20年度第3回検定では受検者全員合格という結果を残すことができました。今後も生徒の積極的な挑戦を応援していきます。

北海道 高校 **函館大妻高等学校** 齊藤 賢一 先生 平成21年度 奨励賞

社会で通用する日本語運用能力の習得

本校は約40%の生徒が卒業後の進路として就職を目指します。社会に出ると正しい日本語を活用する能力がより求められます。特に、企業活動は書き言葉によるコミュニケーション(メールや報告書等)が大半を占めますので、本校ではすべての生徒に一定の日本語運用能力を身につけさせたいと考えています。

生徒の日本語運用能力を高めるために、本校では独自の校内模試を作成・実施しており、秋の漢検では学年ごとに目標値を定めて全校生徒が受検しています。漢検で優秀な成績を取った生徒や合格率が高いクラスなどを全校集会で表彰しており、クラスの一体感を醸成するきっかけにもなっています。その結果、生徒たちは文章作成の際に面倒くさがることなく漢字を使う習慣がつかえました。ぜひ卒業までに常用漢字を使いこなせる漢字活用力を身につけて、社会で大いに羽ばたいてほしいと願っています。

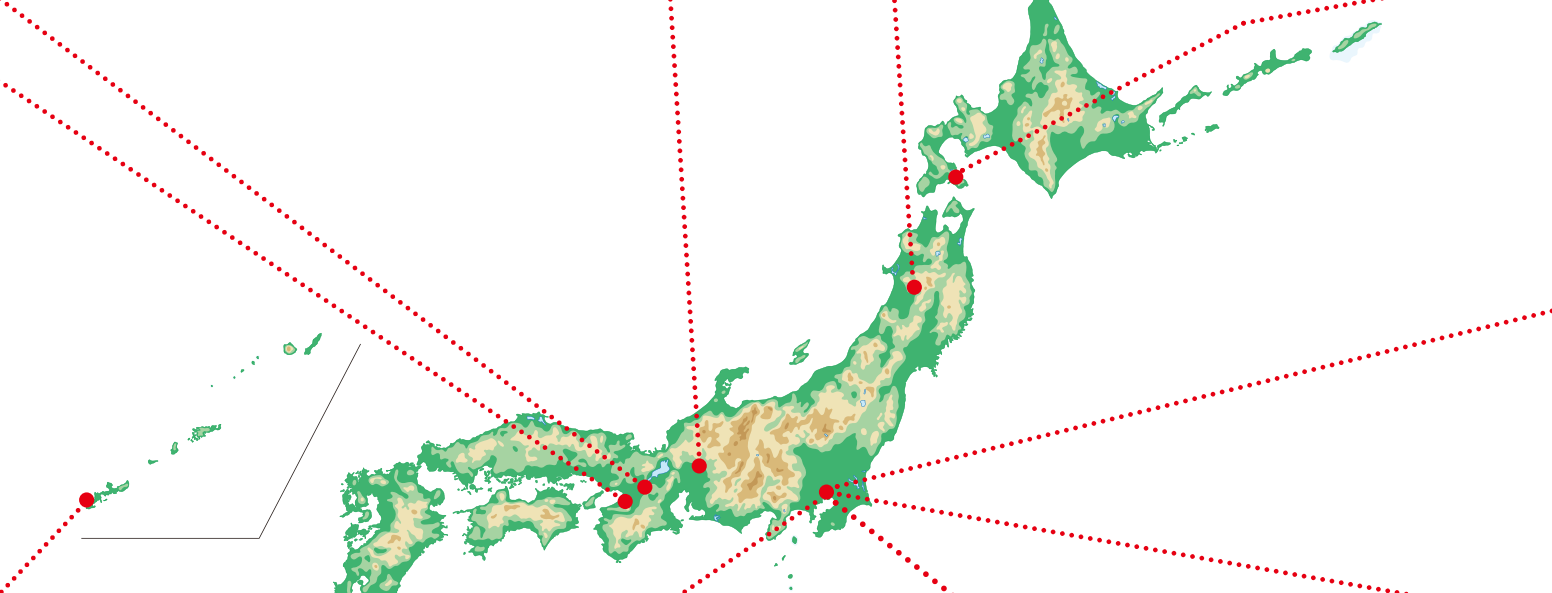
大阪府 高校 **大阪府立信太高等学校** 校長 葛岡 忠彦 先生、国語科 藤岡 裕美 先生

チャレンジから生まれる「学び」を活かす

本校では「チャレンジ信太」を合言葉に、学校を挙げて何事にも積極的に取り組む姿勢を大切にしています。その中で、成功はもちろん失敗からも学ぶことにより、本校がめざす「知徳体」の調和のとれた人間育成とともに、社会人としてたくましく自立できる資質を高めることができると考えています。

この考えのもと、本校では「基礎基本の定着」と「生徒の自尊感情の育み」を目的として漢検を活用しています。1年生では小テストや模擬テストなどきめ細かな漢字指導を行い、2年生では全員受検を実施しています。この取り組みが奏功し、3年生の中にはより上位級に挑戦する生徒もいます。

漢検というチャレンジを通して、基礎的な学力の伸長や「やればできる」という自信を持つことが、さまざまな学習活動、ひいては生徒たちの将来につながるべくと確信しています。



東京都 企業 **大日本印刷株式会社** 研修部長 芝田 和明 氏

漢字能力の育成を図る

当社は「文明の業を営む」を企業理念として活字文化の発展に貢献してきました。創業134年にいたる今日まで「拡印刷」のビジョンのもと事業の拡大をはかり、常に「文字と言葉」にこだわり続けてきました。

特に最も歴史がある情報コミュニケーション部門においては、印刷メディアだけでなくWEB等の新しいメディアにおいても正確な文字の表現が必要不可欠です。このような背景から、該当部門の社員を対象として常用漢字の活用能力を測る2級(準2級含む)取得を目標に漢検を受検することを決めました。そのための勉強会や社内試験を行うほか、受検料を会社が負担したり、合格者に報奨金を出したりする制度も構築しました。

私たち大日本印刷グループは漢検を通じて、創業の原点に立ち戻ると同時に社員の漢字能力を高め、今後の創発的な社会に貢献したいと考えています。

沖縄県 中学校 **興南中学校** 国語科 東迎 あゆみ 先生、平良 先子 先生 平成21年度 特別賞

豊かな言葉の力を養う

本校は基礎学力と学習姿勢の定着を目指して教育を行っています。数年前に模試の結果を分析したところ、生徒たちが論説文を苦手としており、その原因は語彙力の不足にあると気づきました。そこで、生徒たちの語彙力向上を国語科の課題とおき、(1)文化論や自然科学をテーマとした少し難しい文章を読ませる、(2)入試の論説文などに頻出する漢字や語句を出題する、(3)漢検を全校で受検する、という取り組みを始めました。その成果は次第に模試の結果に現れてきています。

漢字力・語彙力は国語力になり、国語力はすべての学力に通じます。また、中学時代からのような文章に触れ、言葉を得たかによつて、将来、自分の言葉として操れる語彙量が決まります。生徒たちには、できるだけ多くの言葉に触れる機会を設け、生きる力の基盤を築いてあげたいと思います。

東京都 中高一貫校 **東京都立武蔵高等学校附属中学校** 東京都立武蔵高等学校 校長 守屋 一幸 先生 平成21年度 奨励賞

リーダーに必要な3つの力

本校では、中高ともに「向上進取の精神」を教育目標に掲げ、「社会に貢献できる知性豊かなリーダーの育成」を目指しています。そのようなリーダーは、自分だけの豊かさや満足を求めるのではなく、社会に「真の豊かさ」を具現化しようとする意欲と能力を持っていくなくてはなりません。

そのために必要な資質は「社会貢献の意欲と意欲を持つこと」「自分の専門とする分野を持つこと」「幅広い教養を身につけること」の3つだと考えています。こうした資質を育むためには漢字能力の向上が重要です。なぜならば漢字は専門的な知識や幅広い教養を身につけるための基礎・基本であると同時に、教養そのものとして日本人に必要な不可欠なものだからです。そこで本校では、生徒の漢字能力を測定するために生徒全員で漢検に取り組んでおり、中学校卒業までに2級取得を目標にしています。

東京都 小学校 **港区立青山小学校** 校長 曾根 節子 先生

自尊感情を育みたい

本校は創立135年を迎えた歴史と伝統のある学校です。年々児童数が減少し、少人数ならではのんびりとした雰囲気の中、学力格差が広がっています。

学力向上調査結果で基礎学力の平均基準に到達していない子どもたちは決して能力そのものが低いわけではありません。「どうせできない」と最初からあきらめてしまっているのです。それはつまり、学習意欲を育むきっかけに恵まれなかったに過ぎません。

本校では、そうした子どもたちに成功体験を与え、自尊感情を育むために、さまざまな改革を行ってきました。漢検の全員受検もその一つです。漢字学習はやればやっただけ成果が出るため、子どもたちの自尊感情を育みやすいのです。今後は、家庭とも連携して、覚えた漢字・語彙を使って、自分の気持ちや考えを文章で表現できる力の育成へと発展させたいと考えています。

東京都 企業 **株式会社TBSテレビ 編成制作本部編成局** アナウンス部長 斎藤 薫 氏

瞬時に原稿の文脈を把握する力

当社では、かつて海外経験や英語力を持つアナウンサーが重用された時期もありました。しかし、実際の放送では、日本語を使って視聴者に伝える場面が圧倒的に多く、生放送中に入るニュース速報を即座にアナウンスするにも少なくありません。その場合、瞬時に原稿の文脈全体を把握し、同時に使われる語彙も見極める必要があります。そのためには、幅広い言葉の知識はもちろん、一定の常識や教養も問われます。

そこで、当社のアナウンサー新卒内定者には、読書や一般常識学習のほか、入社までに漢検2級取得を義務付けています。また、社員専用インフォメーションWEBにて、間違いやすい用例集(誤字、人名、地名など)を定期的に発行したり、国語力アップを目的としたオリジナル問題を配信したりすることで、全社員の日本語力の向上と維持を図っています。

※本コーナーで紹介している学校・企業の声の詳細や全国各地の漢検取組事例を漢検ホームページにてご覧いただけます。 ※掲載内容(団体名、役職名)は取材時のものです。

文化人・教育者が語る私の一字

本コーナーでは、各界で活躍されている方に「自分を支える漢字一字」などをテーマに、それぞれの人生観・仕事観をお話いただけます。



京都仏教会理事長
有馬 頼底 さん

1933年東京都生まれ。久留米藩主有馬家の子孫。8歳で得度を受け、その後、臨済宗相国寺僧堂に入門。現在、金閣寺や銀閣寺を擁する臨済宗相国寺派管長。禅と茶道に関する著書が多く、美術にも造詣が深い。財団法人日本漢字能力検定協会理事。

自ら体験して得たことこそが真の宝

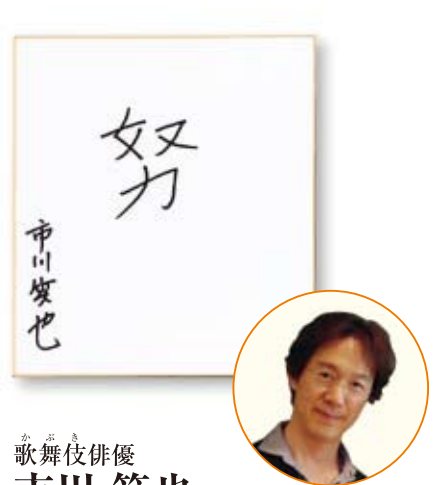
7年ほど前から東京で毎月、座禅と私の講話を合わせた会を続けています。最近、男女を問わず若い方の参加が増えており、海外でも欧州、特にフランス人の間では禅に対する深い関心が広がっているようです。彼らの共通点には、行き詰まった世の中からなんとか抜け出したいという思いがあり、一過性のブームではないような気がしています。

禅の世界には「冷暖自知」という言葉があります。目の前のお茶が熱いか冷たいかは、飲んでみなければわからないという意味です。つまり、外部から得た知識ではなく、自ら行動し体験して会得したものが真正正銘の宝となるという教えです。たとえば、座禅に参加してみるのも「冷暖自知」の実践のひとつでしょうし、数限りない体験を重ねながら、人間はだんだんと成長していくものだとは私と考えています。

私の好きな漢字一字——「無」

私は幼少期に家庭の事情で九州の禅寺に預けられ、スバルタ教育を受けました。そのような環境で育った私が好きな漢字は「無」の一字です。人間は裸で生まれて、裸で死んでいきます。自分の所有物は何もありません。「あれがほしい」「これもほしい」「あいつはあれを持っているから、自分ほっと良いもの・地位がほしい」という考えは災いの元となります。禅宗では「人間本来無一物」といい、心の中に何も置かず、心を空っぽにします。そうすることにより何かに束縛されることもなく、自信を持って生きることができるようになります。

相国寺内の美術館には、開祖夢窓疎石が「別無工夫(別に工夫無し)」と書いた一行書の墨蹟があります。悟りは特別なことをしようとするのではなく、目の前の状況に真正面から取り組むことで開かれていく、という意味で、これも私が「無」に魅かれる理由です。



歌舞伎俳優
市川 笑也 さん

1959年青森県生まれ。国立劇場歌舞伎俳優研修修了。市川猿之助門下となり二代目市川笑也を名乗る。1998年にスーパー歌舞伎「ヤマトタケル」で大役のみやず姫を演じ、「義経千本桜」の静御前役で話題昇進。近年はシェークスピア劇や現代劇にも取り組んでいる。

染色職人志望から歌舞伎役者に

いま、女形の歌舞伎俳優として舞台上立つ私は、梨園出身の俳優の皆さんと違い、幼いころから芸事に親しんでいたわけではありません。父は運送業というごく普通の家庭環境で育ち、私自身、地元の工業高校を卒業するまで生の舞台を観たことはありませんでした。

ところが、友禅染に興味を持ち染色職人を目指していたとき、国立劇場で歌舞伎俳優研修生を募集していることを知ったのです。間近できれいな着物が見られるという動機で応募したものの、研修期間の2年間、三味線や鼓、踊りなどの猛稽古に無我夢中で打ちこんでいるうちに、友禅染を忘れ、すっかり歌舞伎の世界に浸っていました。

夢の中でも芝居

俳優という仕事は、舞台上の演技でお客様に感動を与える仕事です。しかし、スポットライトを浴び華やかに見える時間はほんの一瞬です。その裏で何十倍の地道な努力が必要なのです。師匠の市川猿之助は、「うまくなりたいたら、朝から晩まで芝居のことを考えろ」と言います。実際、私は女形専門になる前、馬の足の役が上手にできず、朝から晩まで悩んでいたところ、ある日の夢にヒントが出てきました。そして、そのとおりに動いてみたら無事に役を務めることができたのです。

私を励ましてくれる漢字一字——「努」

師匠からはよく「常に努力する人間でいなさい」とも言われます。「一生懸命やっつて、ようやく普通の人と同じなんだよ」とも。それは、粋な雰囲気とはほど遠い世界から飛び込んできた私に対する励ましなのでしょう。これからは映画や舞踊イベント出演など、あまりやっつてこなかったことにも挑戦し、新しい演劇ジャンルを切り開いてきた師匠に少しでも近づければと思っています。



作曲家 東京音楽大学教授
三枝 成彰 さん

1942年生まれ。東京藝術大学首席卒業、同大学院修了。代表作にオペラ「忠臣蔵」「Jr.バタフライ」オラトリオ「ヤマトタケル」。2007年、紫綬褒章受章。2008年、モノオペラ「悲嘆」を初演、日本人初となるブッチー二国際賞を受賞。2010年、オペラ「忠臣蔵」外伝を初演した。

100年後に残るオペラを作曲したい

私はこの夏、六本木男声合唱団倶楽部10周年のため、ひとつの合唱曲を書き下ろしました。『最後の手紙』と題したその作品は、第二次世界大戦で亡くなった大勢の人たちのうち、12か国の13人が死を前にして家族、友人、そしてまだ見ぬ子どもたちに送った手紙をもとに作ったものです。

東京藝大の1年生だったとき、世界中の202人が書き遺した手紙を編集した『人間の声』という本に出会いました。それは、愛する家族との絆を引き裂く戦争の残酷さを告発し、二度と戦争が起こらないようにと願う内容で、私の心は大きく揺さぶられたのです。以来、50年近くの間、彼らの生きた声を私の音楽で後の世代に残したいと思い続けてきました。

私がオペラ合唱曲などの作曲にエネルギーを注ぐのは、自分が書いた曲を、100年後も残るようなものにしたと願うからです。作家も同じでしょうが、作曲家として人間の財産となるような仕事をしたと考え、あと6本はオペラを書きたいと構想しています。

生き方の目標にしたい漢字一字——「凜」

『最後の手紙』にも出てくる片山日出雄という人は、上官の命令でオーストラリア兵を殺した罪により、1947年にBC級戦犯として刑死しました。戦後長崎に戻ってクリスチャンになっていた彼は自ら名乗り出て裁判を受け、銃殺される前に、「自分に罪があり、誰も恨んでおりません」と陳述したのです。その潔い態度が立派だとオーストラリアでも称賛されるようになり、彼を主人公にした映画が作られ、アカデミー賞に相当する賞を受賞しています。

私はこうした勇氣ある「凜」として生き方を目標としています。オペラの上演は莫大な費用が必要で経済的には大変厳しいのですが、皆さんの協力を得てこれからも頑張っていきたいと思っています。

※本コーナーは、毎週日曜9:45~10:00にラジオ関西で放送している「池坊保子の一語一句」の内容をまとめたものです。
(有馬さん:7月31日収録、9月12日・19日放送 市川さん:8月24日収録、10月10日・17日放送 三枝さん:8月24日収録、9月26日・10月3日放送)

特集

漢検を活用している学校・企業の声 ~いま、子どもや若者に身につけさせたい力とは~

海外編

海外に住む子どもたちは、国内にいる子どもたちと比べ、日本語に触れる機会が少なくなりがちです。そのため、海外の日本人学校や補習授業校では日本語力の強化に積極的に取り組んでいます。

アメリカ 補習授業校	ヒューストン日本語補習校 校長 中島 満 先生	ドイツ 日本人学校	フランクフルト日本人国際学校 杉田 信一 先生
<p>真の国際人として活躍するために</p> <p>本校は帰国を前提とした駐在員子弟が約8割在籍する学校です。子どもたちが将来、真の国際人として活躍するためには、日本人としての「アイデンティティの形成」が必要であると考え、漢字力を中心とした語彙力の向上を目指しています。語彙力の習得は、自らの思いを表現し、思考を深化させるための必須条件でもあります。海外の現地校に通う子どもたちは、英語漬けの生活実態の中で、日本語の力が必然的に低下して行くことは自明であり、低学年ほどその傾向が強いようです。そこで本校では、小学部1年生から漢検の受験を奨励し、適切な日本語を読み、書き、話せる日本人としての資質の維持と発展を期しています。さらに、授業を行う指導者に対しては、研究授業を全教員に課したり、研究会等を開催したりすることで、日本語の指導力向上に力を入れています。</p>		<p>日本にいる子どもたちと同じ学力を</p> <p>本校では、ドイツ語や英会話などの外国語学習以外は、日本の公立学校とほぼ同じ教育課程で学習を進めています。それは海外で生活する子どもたちに対して、日本にいる子どもたちと同じようにしっかりと学力を身につけてもらいたいと考えているからです。しかし、海外ではどうしても日本語に触れる機会が少なくなってしまう。そこで、本校では国語力(話す・聞く・書く・読む・言語知識)の習得に力を入れることで、日本語の習得を確実なものとしています。具体的には、毎日の宿題で漢字学習を行ったり、小テストを繰り返し行ったりしています。また、年3回、漢検を実施し、フランクフルトでも日本の子どもたちと同様の学習環境を作っています。漢検合格などの明確な目標を設定したことで、子どもたちは自分の力を積極的に試そうとする姿勢を見せるようになっていきます。</p>	

ガーナ 補習授業校	アクラ日本語補習授業校 校長 佐藤 仁 先生		
<p>日本人としての資質を身につける</p> <p>本校は小中学生27名が学ぶ学校です。日本語能力の向上はもちろん、子どもたちには、多様な国際社会の中で、日本の文化・伝統・風習そして日本人らしい細やかな心遣いを身につけてほしいと思っています。しかし、ガーナには日本のように図書館が身近にはありません。邦人が帰国時に残したわずかな日本語の本があるのみで、日本語教育の教材も手に入りません。これは日本語学習にとってあまりに厳しい現状です。このような中、数年前、本邦派遣の大使館関係者に、学校一丸となって漢検に取り組むことを勧められました。漢検導入の結果、子どもたちは目標を設定する機会や合格の達成感を得ることができました。就学年より上の級に合格した子どもにも次回の受験料を免除する奨学金制度も学習の励みになっているようです。子どもたちには、楽しく、お互いを尊重し合いたいものです。主体的に日本語を学んでもらいたいものです。</p>		<p>思いやりや自ら考える力を育みたい</p> <p>本校は、特色ある教育活動の一環として、中国語の習得に向けて習熟度に応じた4コースを設けたり、ネイティブスピーカーを活用した英会話の授業を行ったりしています。さらに、日本の学校へ転校・進学する子どもたちが多いこともあり、日本語や漢字の指導についてもさまざまな工夫を行っています。たとえば、あるクラスでは、「新出漢字の学習はフリーストインプレッションが重要である」という考えのもと、「手を使った指導」を実践しています。指を使って何回か空書きを繰り返した後、ドリルに書き込むのです。また、漢検を実施することで、子どもたちが意欲的・積極的に漢字学習に取り組むよう働きかけています。漢検合格は、大きな自信になっているようです。このような言語指導を通して、子どもたちには思いやりや自ら考える力を身につけてほしいと思います。</p>	

ブラジル 日本人学校	サンパウロ日本人学校 教頭 津嶋 邦彦 先生 国語部 兒玉 拓世 先生	台湾 日本人学校	台北日本人学校 加藤 篤史 先生
<p>「言語活動の充実」を目指して</p> <p>ここサンパウロは日本から遠く離れているものの、漢字の良さを再発見するという点で好条件を備えた街です。日系移民の方々のおかげもあり、生活に漢字があふれ、日本文化を日々力強く発信する、まさに「日本語が生きている社会」なのです。ブラジルの人も多く、高いデザイン性や多義性を持つ漢字をよくよく愛しています。本校では、子どもたちの「言語活動の充実」を目指して漢検を実施しています。漢字を知ること、読書の抵抗をなくす効果があります。そして、読書活動が充実することで語彙が増え、語彙が増えることで、新学習指導要領が改訂の屋台骨とする「言語活動の充実」が達成されるものと考えています。子どもたちには、国際社会で信頼と尊敬を得る人物となるために、言葉の力を身につけ、日本文化や現地の文化を大切にすることを身につけてほしいと思います。</p>		<p>「言語活動の充実」を目指して</p> <p>ここサンパウロは日本から遠く離れているものの、漢字の良さを再発見するという点で好条件を備えた街です。日系移民の方々のおかげもあり、生活に漢字があふれ、日本文化を日々力強く発信する、まさに「日本語が生きている社会」なのです。ブラジルの人も多く、高いデザイン性や多義性を持つ漢字をよくよく愛しています。本校では、子どもたちの「言語活動の充実」を目指して漢検を実施しています。漢字を知ること、読書の抵抗をなくす効果があります。そして、読書活動が充実することで語彙が増え、語彙が増えることで、新学習指導要領が改訂の屋台骨とする「言語活動の充実」が達成されるものと考えています。子どもたちには、国際社会で信頼と尊敬を得る人物となるために、言葉の力を身につけ、日本文化や現地の文化を大切にすることを身につけてほしいと思います。</p>	

※本コーナーで紹介している学校・企業の声の詳細や全国各地の漢検取組事例を漢検ホームページにてご覧いただけます。
※掲載内容(団体名・役職名)は取材時のものです。

